

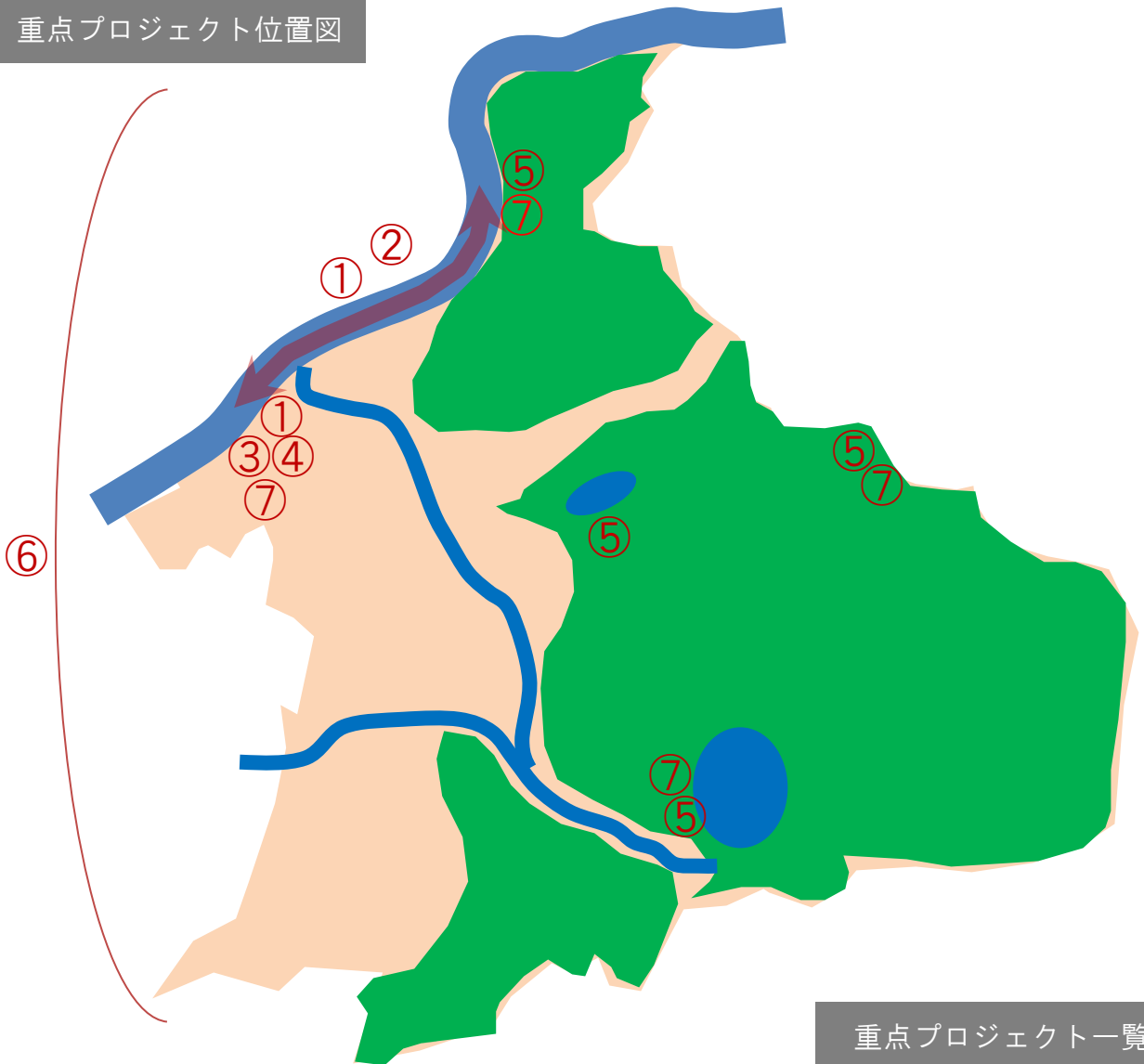
重点プロジェクトについて

6. 重点プロジェクト

(1) 重点プロジェクトとは？

観光戦略において目指す姿を実現するために行う施策のうち、特に重点的に実施する必要がある取り組みである。また、観光分野における犬山らしさの基本コンセプト「犬山三景 水景・城景・緑景」と連動し、推進するものである。

重点プロジェクト位置図



【水景】 ①遊園ルネサンス ②日本ライン再発見ルート	【水景・緑景】 ⑤SDGs 体験・学習サイト
【城景】 ③城下町景観・環境レベルアップ ④城下町クリエイティブ層の移住マッチング	【水景・城景・緑景】 ⑥クロスオーバー資源開発 ⑦ユニーク MICE

(2) 重点プロジェクト

6-1 遊園ルネサンス

現状と課題

木曾川河畔内田地区は、かつて旅館街として宿泊客を受入れ、賑わいをみせていました。日本八景にも選出されるなど、風光明媚な水景は多くの観光客を呼び込み、市民にとっても憩いの空間となっていました。

その後、長い年月を経て、モータリゼーションの発達や道路・交通網の整備により、人々の観光動向も変化。犬山観光が日帰り客中心の観光地となるに従い、内田地区は旅館数の減少や住宅が建設されるなど、かつての状況から変化しつつあります。

川沿いの遊歩道についても、整備から長い年月が経過し、舗装の劣化も見られるようになっていきます。歩道内の桜の木も経年により老朽化が進んでいます。

施策の展開方針

令和3年度に名鉄犬山ホテル跡地に新たなホテル（ホテルインディゴ犬山有楽苑）が開業したことを契機として、内田地区の河畔空間の高質化を推進し、古くて新しい観光スポットとして、そして市民の皆さんにとっても憩いの場となることを目指し、遊歩道の整備を図ります。

ハード整備だけではなく、ソフト事業も事業促進します。具体的には20年以上の歴史がある犬山朝市の充実、宵のいぬやマルシェの本格実施のほか、飲食や物販事業者の誘致など新たな賑わいと憩いの場所づくりを進めます。

チャレンジする重点施策（案）

- 内田地区木曾川河畔整備（社会実験から実装へ）
- 街並みや景観誘導の在り方の検討
- 宿泊・飲食・物販の誘致（マッチング）
- 文化的景観の研究・検討
- 鶺鴒ガイダンス施設の整備検討

目標指標

目標指標	単位	基準値	目標値
		(基準年度)	2032年度
	%	x (2022年度)	
	店	x (2022年度)	

6-2 日本ライン再発見ルート

現状と課題

犬山市北部を流れる名勝木曽川は、四季折々の景色を楽しむことができ、市民及び観光客に親しまれています。古くから水運・舟運により犬山市をはじめ流域の経済の発展に寄与した極めて重要な河川と言えます。また、地理学者志賀重昂が1913年（大正2年）犬山市付近の木曽川の流れを称して「日本ライン」と命名。観光地としても価値づけと賑わいをもたらしました。

加えて、岐阜県美濃加茂市から犬山市にかけて約13kmを遊覧し、木曽川の急流と奇岩群の眺めを楽しむことができる「日本ライン下り」が人気を得て、最盛期の1970年代には年間40万人を超える利用客が訪れましたが、事業収益の悪化などにより平成25年度以降運休されるなど、かつての活況は失われています。

現在は、木曽川ラフティングが運営されたり、遊覧船が就航したり、新たな魅力づくりが進んでいますが、アウトドアへの要求の高まりを受け、さらに木曽川を一体的に楽しむことができる資源としての磨き上げが必要です。

施策の展開方針

かつて日本ラインと呼ばれた美しい景観を保全するとともに、木曽川河川空間という価値を再定義します。その上で木曽川河畔の豊富な資源を活かし、何度も訪れたい、楽しい空間づくりを進めます。

城下町至近から発着する遊覧船を、年間通じて楽しむことができるよう、定期便の安定的な就航に加えて、魅力的な企画船メニューを拡充していきます。

多様な実施主体者と連携し、栗栖園地の整備をはじめ、栗栖地区のアウトドアアクティビティを充実させます。

長期的な目標として栗栖地区から内田地区、そして木津地区に至るまでの歩行者空間整備の充実を目指します。

チャレンジする重点施策（案）

- 栗栖から木曽川犬山緑地までの遊歩道整備と交通規制の研究・検討
- 遊覧船メニューの拡充
- 文化的景観の研究・検討
- 栗栖アクティビティサイトの充実

目標指標

目標指標	単位	基準値	目標値
		(基準年度)	2032年度
	m	0 (2022年度)	x
	人	x (2022年度)	x × 120%

6-3 城下町景観・環境レベルアップ

現状と課題

犬山城及び城下町に観光客が集中することにより、ゴミのポイ捨て、道路混雑、私有地への立入など、地域住民の生活に影響を及ぼしています。また、本町通りなど沿道店舗が掲出する屋外広告物のルールが十分に守られていないことから、城下町としてのまちなみ景観の統一感が失われつつあります。まちなみの景観保全に向けたルールを共有する必要があります。

施策の展開方針

城下町地区の美しい景観が損なわれることのないよう、事業者、地域住民など関係者が「まちなみの在り方」や「住民と観光客との調和・共存」について考える機会を設け、景観や良好な生活環境の保全に必要なルール等を整えます。その上で、屋外広告物のルールについても共有し、美しい城下町の景観づくりを進めます。

城下町地区において、武家町、町人地など、町内ごとの歴史的な経緯も踏まえた賑わいの場所づくり・名所づくりを進めます。

観光客が集中する時期、時間、曜日などを分散化・平準化する取り組みを進めます。

チャレンジする重点施策（案）

- 本町通りの屋外広告物・環境（ゴミ・音・匂い）等のルール構築と共有
- 武家町、町人地、町内ごとの空間づくり（歴史を踏まえた名所・賑わいの場形成）

目標指標

目標指標	単位	基準値	目標値
		(基準年度)	2032年度
	回	0 (2022年度)	
	拠点	0 (2022年度)	

6-4 城下町クリエイティブ層の移住マッチング

現状と課題

新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大して以降、ビジネスの形としてテレワークやワーケーションなども見られるようになるなど、働き方が多様化しています。

一方、城下町には歴史的建造物が点在しており、誘客だけでなく貴重なまちの資源として保存していくことが望まれますが、毎年、老朽化等の事由により除却される事例も見られます。

今後、これら城下町の貴重な資源を守るため、建造物の調査・保存のスキームを確立するとともに、「活きた資源」としての活用も求められます。

このため、城下町の空き家等をワーケーションや地域の交流拠点など様々な活用方法により、資源を保存・継承していくことが重要です。また、城下町の人口は減少しており、空き店舗としての利用だけでなく、移住・定住につながる取組みが必要です。

施策の展開方針

歴史的建造物の保存活用に向けた検討・支援を行うとともに、活用可能な建造物については、クリエイティブ層を中心に移住を見据えた建物の利活用が図られるよう、町内会、所有者、事業者、まちづくり団体など様々な関係者との調整を経てマッチングできるような仕組みを構築、運用を図ります。

チャレンジする重点施策（案）

- 歴史的建造物の保存活用に向けた検討・支援
- ワーケーションとしての活用検討・実施
- クリエイティブ層をはじめとした移住のためのマッチングの取組み

目標指標

目標指標	単位	基準値	目標値
		(基準年度)	2032年度
	件	x (2022年度)	
	件	0 (2022年度)	

6-5 SDGs 体験・学習サイト

現状と課題

持続可能な社会構築のため、世界的に SDGs の取り組みに関する重要性が高まる中、本市においても様々な施策の推進により、SDGs を意識した活動の拡がりが求められています。

取り組みの一環として、犬山市では栗栖・今井・八曾のような豊富な自然環境に恵まれた地区があり、SDGs の理念を踏まえたコンテンツづくりが必要です。また、本市は木曾川、入鹿池のような水資源に恵まれた土地であり、今後は犬山市の治水・利水の歴史が観光客及び市民に広く認知されるような、観光面においても環境を意識した周知・啓発の取り組みが必要です。

施策の展開方針

本市の恵まれた自然環境などを、SDGs の学習の場とすることで、観光分野での利活用を図ります。市民及び観光客が SDGs の理念を楽しみながら学び、理解が深まるような取り組みを進めます。

具体的には、栗栖・八曾・今井など、キャンプができる場所で環境に関する学習会を開催したり、犬山頭首工や入鹿池などでは、周辺地域にも繋がる治水・利水機能など、その歴史も含めて学ぶ機会を設けたりして、これまで本市が観光分野では十分活かすことができていなかった地域資源に注目し、活用します。

新池・中島池では既にビオトープ事業が進められていますが、周辺の民間所有地も含め、市民、観光客ともに憩いの場となるよう、一体的な整備を目指します。

チャレンジする重点施策（案）

- 栗栖、今井、八曾のキャンプサイト活用
- 新池、中島池の環境学習サイトの整備
- 学びのツーリズム（犬山頭首工、入鹿池を活用）

目標指標

目標指標	単位	基準値	目標値
		(基準年度)	2032 年度
	箇所	x (2022 年度)	x+2
	箇所	0 (2022 年度)	1

6-6 クロスオーバー資源開発

現状と課題

犬山市には自然、歴史、文化などの観光資源が点在していますが、人流データなどによると観光客は一箇所訪問が多く、市域全体を回遊していない状況です。豊富な観光資源を活かし、異なる分野でも観光資源をつなぐことや、体験型などの観光コンテンツを多数造成することで、犬山市での滞在時間を増やす取組みが必要です。

また令和元年のアンケートでは本市特産品について「思い浮かばない」が半数以上を占めるなど、魅力的な商品開発や既存物産の磨き上げが必要です。

施策の展開の方針

犬山市の自然、歴史、文化などの豊富な観光資源を活かし、様々な分野との連携により、犬山ならではの観光が味わえるコンテンツ造成、体験メニューの開発を推進していきます。加えて、高単価、高付加価値の商品造成の取組みを進めます。

それら商品開発と異分野との連携を推進する組織体制を整え、着実に事業が推進される仕組みづくりを行っていきます。

チャレンジする重点施策（案）

- DMO 機能の導入を検討
- 異分野連携、多様な主体の参加による観光コンテンツ・体験メニュー開発と磨き上げ

目標指標

目標指標	単位	基準値	目標値
		(基準年度)	2032 年度
	件	x (2022 年度)	
	—	(2022 年度)	

6-7 ユニーク MICE

現状と課題

犬山市は歴史的建造物や豊かな自然など、多様な観光資源を有しています。犬山市への誘客と滞在時間の延長、そして消費を増やすには、観光客だけでなく、法人や教育機関など団体客による行事の場として犬山市が選択される必要がありますが、現状の取組みは十分ではありません。

このため、全国で取り組まれ、整備が進む MICE 機能を本市においても充実させることが必要です。特に、名古屋大都市圏という好立地を活かして、犬山市の豊富な自然環境や明治村、リトルワールドなどの文化資源、城下町などの歴史資源を活用し企業等の会議や報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）、修学旅行などの教育旅行の場として活用されるよう、環境を整える必要があります。

施策の方針

犬山市への来訪者数の増加、及び長期滞在を目指し、法人や学校等が行事の際に犬山市をフィールドワークの場として活用されるよう、各観光施設と連携して利用の促進を図っていきます。

チャレンジする重点施策（案）

- 城下町、明治村、リトルワールド、キャンプサイトの活用
- MI（ミーティング、インセンティブ）を中心とした MICE 誘致の推進

目標指標

目標指標	単位	基準値	目標値
		(基準年度)	2032 年度
	件	x (2022 年度)	
	件	0 (2022 年度)	

(3) 施策の総括表

基本コンセプト「犬山三景 水景・城景・緑景」 観光まちづくりの将来像「犬山らしさを磨き、ずっといたくなる、みんなで作る・みんなのための観光」											
課題	基本理念	高めるもの 方向性	チャレンジする重点施策(案)	成果指標	重点プロジェクト(案)						
					7-1 遊園ルネサ ンス	7-2 日本ライン 再発見ルー ト	7-3 城下町景 観・環境レ ベルアップ	7-4 城下町ク リエイティブ 移住	7-5 SDGs体験・ 学習サイト	7-6 クロスオー バー資源開 発	7-7 ユニーク MICE
					水景	水景	城景	城景	緑景	水景・城景・緑景	水景・城景・緑景
【滞在時間】 日帰り観光客の滞在時間を延長させる必要がある 複数立ち寄りによる滞在時間の延長が必要 体験メニューの充実による滞在時間を延長させる必要がある 犬山城、城下町、木曾川河畔など回遊性を高め滞在時間・宿泊者数を増加させる必要がある 【宿泊客】 宿泊客数の増加が必要 名古屋宿泊から犬山宿泊へ誘導する必要がある 立地アクセスの良さを活かした首都圏等、広域誘客（リニア新幹線を見据え）の増加が必要 新たな宿泊施設との連携により宿泊者数を増加させる必要がある インバウンド需要取込みによる宿泊者数を増加させる必要がある 夜の魅力づくりによる滞在延長・宿泊の増加が必要 【その他】 平日と休日、繁忙期と閑散期など平準化・分散化の必要がある。 MICE客の誘致が必要 【観光の基幹産業化】 宿泊観光客の消費額を増加させる必要がある 域内消費を増加させ、観光の経済波及効果を高める必要がある 観光産業による地域雇用の拡大が必要である	ゆっくりと安心して歴史・文化・自然が楽しめる、地域も潤う(コンフォタビリティ)	滞在・体験型観光 (宿泊施設の充実 &体験メニュー開発) 木曾川河畔地区の街並みや景観誘導の在り方の検討、宿泊・飲食・物販の誘致 木曾川河畔の賑わいづくり(マルシェの通年実施他)、エリアマネジメント 城下町と栗栖を結ぶ遊覧船メニューの拡充(企画船、定期船等) 木曾川(栗栖～内田地区)文化的景観の研究・検討 ナイトタイムエコノミーの充実(イベント、飲食店、イルミネーション、ライトアップなど) 多様な宿泊形態の実現(イベント民泊+民泊施設、簡易宿所増、一棟貸切り型宿泊施設) 既存宿泊施設の充実 栗栖、今井、八曾のキャンプサイトを自然体験・環境学習の場に 多彩な体験型観光メニューの開発(シェアエコ活用等) ホテルムスタイル犬山エクスベリエンス・ホテルインディゴ犬山有楽苑等の宿泊施設との連携・体験コンテンツのガイド機能 テーマパーク名鉄3園の魅力発信と一泊したくなる仕掛けづくり 広域観光・周遊ルートの達成(犬山を(宿泊)拠点とした広域周遊) 季節ごとに異なる体験イベントの実施 MICE: 城下町、明治村、リトルワールド、キャンプサイトの活用 MIを中心にしたMICE誘致の推進	宿泊客数 (観光統計) 日帰り・宿泊消費額 (観光アンケート調査)	●	●					●	●
【観光の基幹産業化】 宿泊観光客の消費額を増加させる必要がある 域内消費を増加させ、観光の経済波及効果を高める必要がある 観光産業による地域雇用の拡大が必要である		域内循環型の 観光経済確立 (地産地消) 犬山の「水」にまつわる商品の開発・充実 ECサイトでの販売体制確立及び拡大 特産品開発(地域資源活かして東京で売れる特産品を) 地元にも愛される名物・普段使いの特産品(既存の価値ある資源磨き上げ) 城下町とその他の地域を結びつける取組み(出張朝市、案内所から情報発信強化) 地元で調達、地元で消費の仕組みづくり 老舗になり得る店舗支援・誘致 新たな財源獲得検討(税、利用料など)	宿泊業地元調達率 (観光事業者アンケート調査)	●	●						●
【魅力の向上】 木曾川「日本ライン」としての魅力再構築する必要がある 歴史・文化資源を磨き上げる必要がある 既にある特産品を磨き上げる必要がある 新たな名物の発掘・創出をする必要がある(コンテンツづくり) 高単価、高付加価値の商品を造成する必要がある 豊かな自然(里山、景勝地)の活用・アウトドアを開発する必要がある ブランド力を向上させる必要がある	犬山ならではの感動が得られる(オリジナリティ)	資源発掘・創造 ブランド形成 (ソフト施策) 犬山頭首工が舞台の環境学習 犬山温泉の再興(ホテルインディゴ犬山有楽苑とともに) 里山を活かしたアウトドア・スポーツ観光(トレイルランニングレース開催等) 入鹿池(世界かんがい施設遺産)の資源磨き上げ(釣り・リズム、視点場) 入鹿池が舞台の環境学習 国宝犬山城の世界遺産登録に向けた取組み (大本町/下本町/魚新通等)城下町ストリートの特徴を出す(にじみだし) 城下町の中心地・本町通り「かわいいと文化」のまち+視点場づくり 尾張の奥座敷としてのブランドイメージ向上に向けた取組み 世界でも稀有な施設「日本モンキーセンター」「明治村」のブランド力向上 犬山焼の新たな価値づくり(ブランディング) 名古屋市との連携による犬山のブランディング 街道を歩く観光商品の造成(インバウンド、アクティブシニア) 異分野連携、多様な主体の参加による観光商品・体験メニュー開発 高単価、高付加価値商品造成の取組み推進 文化財・芸術・スポーツ分野の連携と活用(スポーツコミッション等との連携等) デジタルコンテンツづくりと充実 関東、関西、名古屋圏でのアンテナショップ等の展開	観光客満足度(風景・体験アクティビティ) (観光客アンケート調査) リピート率 (観光客アンケート調査)	●	●		●	●		●	●
【空間整備】 木曾川河畔の魅力向上させる必要がある 受け入れ環境の整備が必要(看板、ゴミ、休憩所、施設整備)		景観・空間の整備 (ハード施策) 鵜飼ガイド施設等の整備(鵜飼の充実と拠点の整備検討) 栗栖アクティビティサイトの充実(園地・登山道・河川空間、農園、桃太郎神社等) 栗栖から緑地までの遊歩道整備などの検討 内田木曾川河畔整備(社会実験から実装へ) 視点場、案内板、ベンチ等の整備 歴史的建造物の保存活用(調査→支援) 空き家の活用(ワーケーション、クリエイティブ層の移住のためのマッチング等) 城下町「美しいまち」を意識した施設整備(看板、道路、街路樹など) 国道41号沿道「道の駅」整備(市中心部に観光案内機能を備えた施設整備) 新池、中島池の環境学習サイト整備 二次交通の課題改善と充実(観光ガイドタクシー、ホテルからのシャトルバス運行、MaaS)	観光客満足度(風景・体験アクティビティ) (観光客アンケート調査) リピート率 (観光客アンケート調査)	●	●						●
【おもてなし・受入体制整備】 観光客と住民との共存・調和が必要 観光人材の育成が必要 観光に関わる人の増加が必要 郷土愛の醸成が必要 観光地としての感染症対策が必要 自然災害・衛生マネジメントが必要	犬山人のおもてなしに出会える(ホスピタリティ)	みんなで作る観光施策 (市民参画・交流 ・関係人口・多様な参画) 本町通の屋外広告物・環境(ゴミ・音・匂い)等のルールづくりと共有 武家町、町人地、町内ごとの空間づくり(歴史を踏まえた名所・賑わい形成) 市民が参画する観光まちづくり(対話の場、参画の仕組みづくり、観光人材育成等) ワーケーション・プリージャーの仕組みづくりと誘致 DMO機能の導入を検討 インナーブランディング(犬山愛の醸成)	体験型メニューの造成数 (観光協会資料) 体験型メニューの参加者数 (観光協会資料)	●	●		●	●		●	●
観光戦略の推進を支える施策		データを活用したプロモーションの展開 自然災害・衛生のためのマネジメントの充実 マネジメントを重視した観光推進体制の整備	定期的なデータの収集により観光客の行動やニーズを把握することで、誘客方法の検討やターゲット別の施策展開に活かし、効果的なプロモーションを実施。 自然災害の発生や新型コロナウイルス感染症の拡大などに対し、市及び観光事業者が適切に対応し、安心安全な観光地となるようリスクマネジメントを推進。 観光施策の総合的な効果発揮に向けて、多様な担い手と協議・調整の場を設置し、観光戦略の進捗を管理し、観光施策を着実にする体制を整備。								